

## (2) 調査遺跡の概要

# たかせやま 高瀬山遺跡 (H O) 3期

遺跡番号	430
調査回数	第3次
所在地	寒河江市大字寒河江字高瀬山
北緯・東経	38度21分44秒・140度16分8秒
調査委託者	山形県村山総合支庁建設部西村山道路計画課
起因事業	最上川ふるさと総合公園整備事業
調査面積	1,500 m <sup>2</sup>
現地調査	平成22年6月1日～8月18日
調査担当者	今正幸 (現場責任者)・安部将平
調査協力	寒河江市教育委員会・村山教育事務所
遺跡種別	集落跡・古墳
時代	旧石器時代・縄文時代・古墳時代・奈良時代・平安時代 中世
遺構	土坑・ピット・溝跡・石器集中出土地点
遺物	縄文土器・土師器・須恵器・石器・石製品 (文化財認定箱数：16箱)



遺跡位置図 (S=1:50,000)

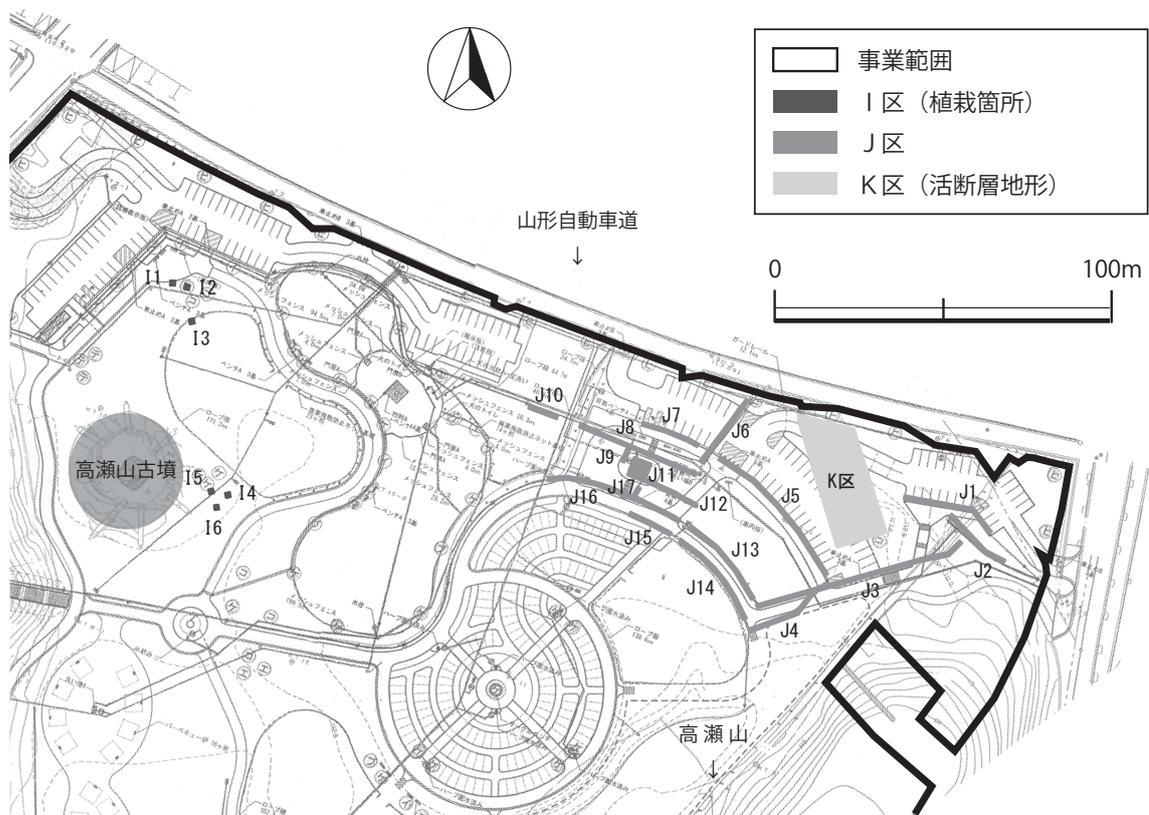
### 調査の概要

高瀬山遺跡は寒河江市街の南西、最上川の北岸に沿った東西約1.6kmの範囲に位置する。旧石器時代から中世にわたる複合遺跡で、県内有数の規模を誇っている。周辺は果樹園や畑地として利用されてきたが、近年の開発によって現況は大きく変貌しつつある。当センターでは高速道路建設に係る1期・2期・SA (サービスエリア

ア地区)、公園造成に係るHO (旧称ハイウェイ・オアシス地区) 1期・2期の発掘調査を実施してきた。

今回は最上川ふるさと総合公園整備事業に係る高瀬山遺跡 (HO) 3期の発掘調査である。調査区は遺跡の南東端にあたる比高差20～30mほどの小丘陵「高瀬山」の西麓、最上川との間の中段段丘に立地する。調査区域には、県指定史跡「高瀬山古墳」が隣接している。調査は給排水・電気・フェンスなど公園設備の埋設工事に沿った幅1～2mの線掘り (トレンチ) が中心で、住居跡や溝跡などの大型遺構、或いは、遺跡の全容を捉えることは困難であった。20・21年度に実施した第1・2次調査では、縄文時代中期末葉～後期前葉を主体とする大規模な集落跡をはじめ、奈良・平安時代の竪穴住居跡や古墳の周溝しゅうこうの可能性のある溝跡などが検出されている。

22年度の第3次調査の調査面積は1,500 m<sup>2</sup>で、調査区は高瀬山古墳の周辺 (I区) と高瀬山の北西麓 (J・K区) に分かれる。植栽箇所のI区 (I1～6地点) では2×2mの坪掘り、J区 (J1～10・12～17トレンチ J11地点) は主に工事ラインに沿った線掘りを



調査区概要図 (S=1:2,000)

行った。なお、K区では公園予定地内に残存する活断層地形の確認と保存・活用を目的とする約600㎡の面調査を併せて実施している。

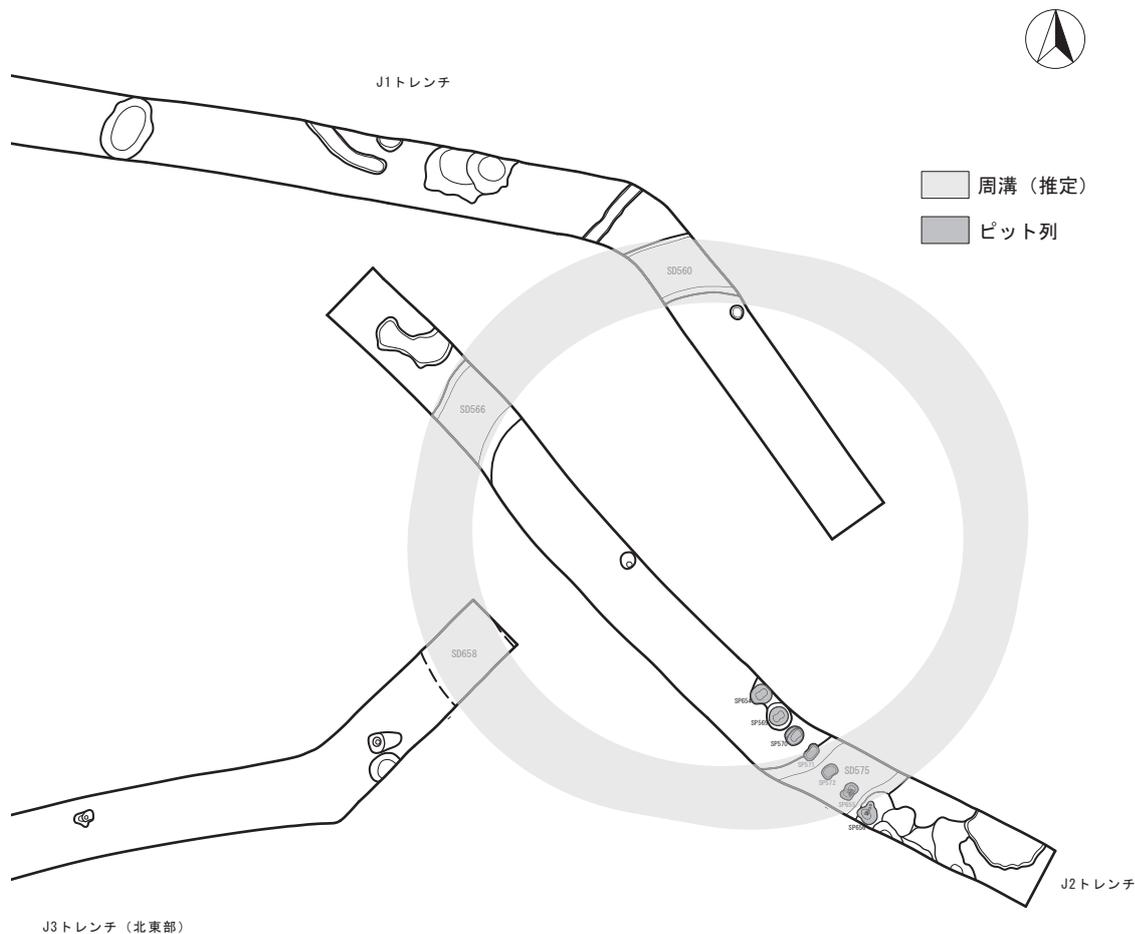
### 遺構と遺物

今回の調査で検出した遺構は登録数195基で、主な遺構として土坑・ピット・溝跡・石器集中出土地点などがある。

I区は調査箇所が局所的だったこともあり、遺構や遺物はほとんど検出されなかった。

J1～3トレンチでは、古墳時代の円墳或いは方形周溝墓の周溝の一部とみられる溝跡(SD560・566・575・658)を4箇所検出した。溝跡は幅1.4～2m・深さ0.2～0.5mを測り、周溝の平面プランは外径14mほどの円形或いは隅丸方形を呈するものと推定される。さらにJ2トレンチでは、この溝跡を切るピット列(SP569～572・654～656)が検出された。ピットの底面は楕円形を呈し、根石ねいしと思われる複数の小礫を敷いた痕跡が残ることから、2本組の柱穴である可能性

が示唆される。館跡や経塚といった中世の遺跡が存在する高瀬山の直下に位置し、これらに関連する区画施設とも考えられる。いずれも検出は一部分に限られ、遺構の性格を示すような遺物の出土も見られなかったが、近接する高速道路(1期調査区)においても同様の遺構が検出されており、当該期に属するものと判断される。段丘上端にあるJ5トレンチでは、欠損した石棒せきぼうと石核を伴出する土坑(SX527)が検出されている。土坑の規模や形状からは、縄文時代の陥穴おとしあなが想起される。J15トレンチでは1.5×3.5mのテストピットの範囲において、1200点を超える多量の石器群(剥片・碎片)が出土した。現在、整理段階における石器の組成にはナイフ形石器6点・彫刻刀形石器8点・彫刻刀スポール33点・細石刃さいせきじん66点・石刃せきじん99点・石刃核8点・ハンマーストーン2点が含まれ、数個体の接合資料も確認されている。遺物分布や石器組成からみて、旧石器時代の石器製作・廃棄の場であったと考えられる。なお、原石の頁岩けつがんは、付近の最上川河床で採取されたものと思われる。出土層



J1・2・3トレンチ(周溝・ピット列)遺構配置図 (S=1:160)

位は縄文時代以降の遺物包含層(黒ボク土)よりも下層の地山(褐色ローム質土)直上から約30~40cmまでの深さで、地質学的な分析によれば約1~2万年前の年代が想定される。

北東の段丘斜面に立地するK区は、調査面積に比して遺構の分布は非常に希薄で、検出遺構はやや大型の土坑3基(SK710~712)のみである。また、活断層地形に関わって、調査区を横断する断層崖(地山の落ち込み)を帯状に検出した。逆断層によって生じた高低差は1~1.2mを測る。土層断面から、新たに断層面の切れ目が黒ボク土層まで達している状況が確認できた。なお、断層崖に厚く堆積する黒ボク土の中~下層において、縄文時代の石器(石匙・石筥)が出土している。

出土遺物は整理箱16箱で、主な遺物として縄文土器・土師器・須恵器・石器・石製品などがある。土器はいず

れも小破片で、器形が窺えるような資料はほとんどなかった。縄文時代の石器・石製品には、石鏃・石匙・石筥・石核・磨石・石棒がある。

#### まとめ

今回の調査成果として、遺構や遺物は少なかったものの、これまでの第1・2次調査では見られなかった旧石器時代や中世に属する遺構や遺物を新たに検出した。特に旧石器時代の石器製作址は、大変貴重な発見となった。J区で検出された溝跡やピット列、旧石器の集中ブロックなどは、高瀬山遺跡(1期)との関連性が高く、北方面への遺跡の広まりが予測される。

高瀬山遺跡(HO)3期の発掘調査は22年度で終了し、23年度は第1~3次までの整理事業を行って、報告書を刊行する予定である。



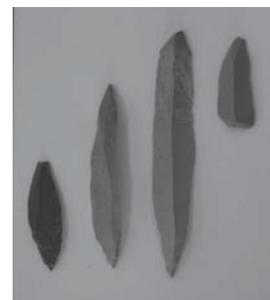
S X 527 石棒出土状況



J 15 トレンチ 旧石器集中出土地点



J・K区全景 (写真上：北)



ナイフ形石器



彫刻刀形石器



K区 断層崖・遺構検出状況 (北から)



断層面 (切れ目) の土層断面